

氏名	宮 崎 義 則		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博乙第 3397 号		
学位授与の日付	平成11年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	ストレスが眼圧に与える影響		
論文審査委員	教授 黒田 重利	教授 吉良 尚平	教授 阿部 康二

学位論文内容の要旨

ストレスが眼圧にどの程度の影響を与えているかを定量的に評価することは非常に重要である。特に緑内障患者にとってストレスがどの程度の増悪因子となりうるのかを判断する場合、一つの貴重な指標となる。今回、ストレスとして拘束負荷と急速点滴負荷を組み合わせて、ストレスが家兎の眼圧に及ぼす影響を調べた。拘束負荷後の眼圧と体内変化（ホルモン、静脈圧）を評価することで眼圧上昇の機序を検討した。その結果、拘束負荷後の眼圧は、非拘束下での眼圧に比べて有意に高いことがわかった。この差は、両群に対して点滴を行うとさらに大きくなった。拘束後、血中コルチゾール、アドレナリン、ノルアドレナリンが有意に上昇し、耳静脈圧は、非拘束時に比べて拘束時に上昇し、点滴によりその差は有意に大きくなった。拘束負荷により眼圧が上昇した原因として、拘束負荷後の血中カテコールアミンの上昇に伴う静脈圧の上昇が房水流出抵抗を増大させ、眼圧を上昇させたと考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、ストレスの眼圧への影響を、家兎9羽に身体拘束と急速点滴の負荷をして研究したものである。その結果、拘束負荷後の眼圧は非拘束下の眼圧と比べて有意に上昇し、点滴を行うとさらに上昇した。血中のコルチゾール、アドレナリン、ノルアドレナリンは拘束後に上昇し、耳静脈圧も上昇した。拘束負荷後の眼圧上昇は、カテコールアミンが上昇にともない、耳静脈圧が上昇して房水流出抵抗が増し、眼圧を上昇させたと考えられた。これらの成果は緑内障の増悪因子の一つとして、ストレスの関与があるという重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。